

天理教 江南支部だより

先行日
発行責任者
発行住所

江南支部
立教189年 3月1日
九里正昭
甲賀町神1750番地の1

3月号 N0308

教祖百四十年祭が一月二十六日厳かに勤められました。次の塚に向かつてスタートを切る今、真柱様のお言葉を心に治めて歩みを進めたいと思います。

教祖百四十年祭真柱様あいさつ

教祖の年祭は、教祖がお姿をかくされたという事情があつて勤められるようになった。稿本教祖伝第十章は、明治20年1月1日、教祖が風呂場からお出ましのとき、ふとよるめかれた、という記述から始まっている。1月4日には、急にお身上が迫ってきたので、飯降伊蔵様を通して「おさしづ」を伺ったところ、「さあ／＼もう十分詰み切った。これま



で何よの事も聞かせ置いたが、すつきり分からん。何程言うても分かる者は無い。これが残念」云々、とのお言葉があり、このとき、教祖は息をせられなくなり、お身上が急に冷たくなった、とある。一同は驚いて、

急ぎ込まれているおつとめを手控えていたことへのお詫びのおつとめを勤めたのである。

その後も、教祖のお身上が切迫すると談じ合いを重ね、おつとめを勤めるといふことについて、初代真柱様の判断を仰いだのである。初代真柱様は即答されず、いろいろと考え抜かれたであろうと思うが、そのうえで1月13日、教祖の枕辺に進んでお伺い申し上げた。

問答の中で、教祖は「分からんであるまい」と、これまで説いてきたところを実行するように促された。そして、初代真柱様が、教祖の仰せと法律を守ることと両方が同時に行える道を教えていただきたい、というようなことをお願いしたとき、教祖は「月日がありてこの世界あり、世界ありてそれ／＼あり、それ／＼ありて身の内あり、身の内ありて律あり、律ありても心定めが第一やで」。そもそも、月日親神がこの世人間を造った。その人間が定めたのが法律である。法律があるからつとめはできないと言うが、元なる親神様の心に浴いきる心を定めることが第一であると、陽気ぐらしへ進んでいくところの心の持ち方、法律に先立つ心定めをお論しくだされた。これは、ただそのとき居合わせた人々に対するお諭しであるばかりでなく、現在の私たちも心しなければならぬ、信仰の要である。

1月18日からは、教祖のお身上平癒を願って、連夜、お願いづとめが勤められる。そして2月17日夜、教祖のお身上よろしからず、18日、陰暦1月26日、いよいよお身上が迫ってきたので、ついに意を決して、白昼堂々とおつとめ

を勤めたのである。警官はやって来ず、おつとめは無事勤め終わった。これで教祖はきつとお元氣になつてくださると、意氣揚々と引き揚げて来た人々は、教祖が御身をおかくしあそばされたことを知り、茫然自失し、悲嘆に暮れたが、氣を取り直して「おさしづ」を伺うと、「さあ／＼ろっくの地にする。皆々揃うたか／＼。よう聞き分け。これまでに言つた事、実の箱へ入れて置いたが、神が扉開いて出たから、子供可愛い故、をやの命を二十五年先の命を締めて、今からたすけするのやで。しっかり見て居よ。今までとこれから先としっかり見て居よ」云々、とのお言葉があつた。

昨年、秋の大祭のときにも話したことだが、二代真柱様は「始めた理と治まりた理と、理は一つである」（明治29年2月29日）との「おさしづ」を引いて、陽氣ぐらしの道をお教えくださったのも、人々の成人を促して身をかきされたのも、その理は子供可愛いというをやの心一つからのことなのだ、何度もお話しくだされた。

教祖は、可愛い子供をたすけて陽氣ぐらしへと導いてやりたいとの親心から、だめの教えをお啓きくだされ、以来50年にわたつてたすけ一条の道の次第を整えられ、自ら歩んでひながたの道をお残しくだされたいうえで、「今からたすけするのやで」と、なおもたすけを急ぐと、定命を縮めて現身をかくされ、以後、末代にわたつて存命の理をもつてお道きくださるのである。この教祖の深い親心をあらためて思索し、心の成人をもつてお応えすることが、教祖年祭を勤める意義である。

このたびの年祭も、成人の歩みを一層進めていきたいと思ひ、ひながたを目標に全教が仕切つて一手一つにたすけ一条の活動に取り組もうと「論達」で呼びかけた。それについては、三年千日の間、年祭活動のうえに励んでくださり、大変ご苦勞さまでした。ありがとうございました。お礼を申し上げたい。一生懸命つとめた人であるほど、きょうの日を勇んだ心で迎えることができるのではないかと思ふ。

だが、陽氣ぐらしの世界への道のりは、まだまだ遠い。この長い道のりの道しるべとして、10年ごとに年祭という一つの節目を設け、全教があらためて目指すべきところを確認し、心の向きを揃えて、心のふしん、また形のふしんを進めて、道は今日の姿に至つたのである。

年祭に向かつての、いわば非常時の歩みは終わった。これからは普段の歩みになっていくわけだが、普段といつても、3年前に戻つてしまつたのでは何にもならない。3年間の努力のうえに立つた歩みを続けていかなければならないと思ふ。

きょうは新たな歩み出しの日でもある。どうか、これからも勇んで歩み続けてくださることをお願いしたい。

『みちのとも』より一寸いい話 心の切り替え

森岡始子 神郷分教会長夫人

教祖百四十年祭へ向かう年祭活動1

年目の秋、特にこれという原因もない



のに、なぜか心が沈みがちになり、勇めない日々が続いていました。信者さん方にはなんとか普段通りの態度で接していましたが、会長宅に戻ると笑顔が消え、話をするのもおつくうな状態に。そんな私の様子を見ていた当時3歳になったばかりの娘がトコトコと目の前まで歩いてきて、よしよしと静かに頭をなでてくれました。

娘の優しさに涙が出るとともに、子供にまで心配を掛けてしまっている状態を変えなければと思いました。そこで、主人に話を聞いてもらおうとしたのですが、自分の気持ちをうまく言葉にできませんでした。

曇った心のまま過ごしていたある日、神殿掃除後に年配のご婦人さん数人とお茶を飲んでいました。そのとき何げなく、「私、最近全然勇めなくて……」と悩みを相談することができたのです。すると、「奥さん、最近元気ないなと思ってたわ。どうしたの?」と言われました。信者さん方には普段通り接しているつもりでしたが、どうやら気づかれています。

「何がどうしたってことはないのに、心がしんどくて」と伝えたところ、一人のご婦人が「私も若いころはいろいろあったと思うけど、遠い昔の話で忘れてしもたわ」と言って皆を笑わせてくれました。「こうしたらいいよ」といったアドバイスなどはありませんでしたが、陽気なおばちゃんたちの笑い声に救われ、不思議と心が軽くなっていきました。

普段は人の悩みを聞くことのほうが多いため、今回、信者さんに悩みを聞いてもらい、心が軽くなったことは新鮮な喜びでした。また、悩みを打ち明けたことで、信者さんとの距離も近くなったように思います。

後日、ほかの方は心が勇めないときどうされているのか気になり、義父母や知り合いの教会の奥さん方に、心の切り替え方について尋ねてみると次のように話してくれました。

・おつとめをする
・家にこもっていると暗くなってしま
うので、おたすけに出る。すると自
分の悩みは小さいものだど心が軽く

なっていく

・夫婦でよく話す。たとえけんかにな
ってもとことん話す

・一生懸命になりすぎない

・人におさづけを取り次ぐと調子が戻
る

・頭を下げて低い心になるよう努める

・お日さまに当たる

・元気づけようとしてくれる家族に心
が救われる

・子供と遊んで、笑顔に癒やされる

・嫌なことがあったら早く寝て、考え
ないようにする

主人は初めて会ったときから、心の
ONとOFFの切り替えがすごく上手
だと感じていたので、主人にも尋ねて
みました。

・お笑い番組を見てガハハと笑う

・人におさづけを取り次いだら自分の
心が洗われる

・奥さんが元気だったら（機嫌が良か
ったら）それだけで元気でいられると。

そんな主人の隣にいるおかげで、私も
以前に比べ、心の切り替えが早くでき
るようになってきたと思います。

女子青年時代を思い返すと、沈んだ気持ち切り替えるのに、もつと時間がかかっていました。ひどく落ち込んだときは夜も眠れず、朝方に外がうっすら明るくなり始めると眠くなり、そのまま朝づとめにも出られないこともよくありました。

教会で育ち、幼いころからお道の教えを聞かせてもらっているのに、教え通り歩めていないと思いついで自らを追い詰め、親や教会の皆さんにも心配を掛けていました。そんなとき父母は、一緒におちば帰りをしてくれました。親里の空気に触れると、ギュッと固くなっていた心が、フワッと柔らかくなる気がしました。

母は「その悩みがいつか、おたすけに生きてくるから大丈夫」と声を掛けてくれました。そして父は、私が嫁ぐとき「いつも始子らしさを忘れずに」と言葉を贈ってくれました。

いま、教会では、心の悩みを抱えた方をお預かりしていて、おたすけの日々です。心の切り替えは簡単なことではなく、私自身もまだまだ苦手ですが、

その悩みもおたすけに生かせるよう心がけ、自分らしく一歩ずつ通らせていただきたいと思います。

支部婦人会が育み塾を開催

江南支部婦人会は、2月1日午前10時より大原郷分教会を会場に『育み塾』を開催した。

参加者は6名、逸話篇の勉強をテーマに逸話篇「子供が親のために」を全員で逸話劇を演じ、練りあいを行いおたすけの為の真実について話し合いを行った。



逸話劇を行いおたすけについて学んだ

教祖百四十年祭

学生おちばがえり大会

●滋賀教区学生会のご案内

・日時 3月27日～28日

集合 27日13時

解散 28日16時

・宿舎 水口詰所

・参加費 千円

・チラシから申込み

または支部学生担当へ

谷 大志 池里分教会

☎ 861-4825



3月支部にをいがけデー

日時：3月28日午前9時～

拠点教会：田堵野分教会 甲賀町田堵野528番地